

様式第2号（第8条・第9条関係）

令和 2年 8月27日

白老町議会
議長 松田 謙吾 様

白老町議会議員 吉谷 一孝 印

派遣結果報告書

日時（期間）	自 令和 2年 2月19日（水） 至 令和 2年 2月21日（金） （2泊3日）
目的地	静岡県御殿場市 ①御殿場市教育委員会 ②時の栖 群馬県川場村 ①道の駅川場田園プラザ
調査事項	・スポーツ振興とスポーツツーリズムによるまちづくり ・交流施設による地域活性化
視察の成果 （具体的に）	別紙参照

※ 必要の都度、写真その他を添付すること。

現在白老町は、少子高齢化による人口減少問題により多くの課題がある。特に、公共施設の老朽化対策などは喫緊の課題である。加えて、本年民族共生象徴空間の開設を控えるわがまちの交流人口対策に資する点があることから、通過型観光地ではなく滞在時間を長くしていく必要があることから、スポーツツーリズムを一つの軸にしながら先進的なまちづくりに取り組んでいる静岡県御殿場市の観光施設や民間のスポーツ施設などと、道の駅で190万人の交流人口を集客する「道の駅川場田園プラザ」の視察を行った。

1. 静岡県御殿場市「スポーツツーリズム」の取り組みについて

(1) 御殿場市 産業スポーツ部

御殿場市では恵まれた環境を生かし観光客の滞留促進を目指す『御殿場市観光ハブ都市づくり推進構想』の推進プロジェクトの一環でスポーツツーリズムに取り組み、「スポーツによる観光町づくりの推進」として位置付けている。

[スポーツツーリズム推進体制]

平成23年からスポーツツーリズム育成支援事業として、文化スポーツ課で取り組みをスタートした。スポーツ合宿誘致のみならず、市固有の自然環境やスポーツ環境を活かした取り組みを進めていた。平成29年から商工、観光、農林分野を含めた「産業スポーツ部」を新設し、さらにスポーツツーリズムに力を取り入れて取り組むための「スポーツ交流課」を新設。東京2020オリンピックの自転車競技ロードレースが市域をコースすることが決まり「東京オリンピック、パラリンピック課」が新設され、同課内でスポーツツーリズム推進の取り組みも狙い、市民スポーツ振興やスポーツ等の担当として「市民スポーツ課」が設置され両輪で市のスポーツ行政を担っている。

御殿場市の観光交流客数 平成24年度は、1,287万3,263人であった観光交流客数は、平成30年度には、1,522万2,608人と234万9,345人の増加となった。



御殿場馬術・スポーツセンター

(2) 御殿場市立「富士山樹空の森」

御殿場市には、自衛隊演習場が4か所あり、有名な東富士演習場を擁している。観光振興や交流人口拡大を地域経済活性化の柱と位置づけた「御殿場市観光戦略プラン」を策定し、平成28年から令和2年までの計画期間を設定し、意欲的に観光振興交流人口活性化に取り組んでいる。この計画推進の一つが今回視察した御殿場市の「富士山樹空の森」である。

この施設は、「防衛施設周辺まちづくり計画補助金交付金計画」を受け「防衛施設の存在を活用した地域振興計画など防衛施設を前提としたまちづくりのための総合的な計画」を策定する事業に対し、計画に位置づけられた施設整備に対し75%の補助金交付の方針を受けている。平成23年4月にオープンした同施設は、令和元年度で延べ来訪者300万人を達成する市内有数の交流施設となっている。運営は印野郷土振興協会グループが指定管理を行っている。市民の要望を受けた形で富士山や自衛隊を紹介する「ビジターセンター」と、市民の交流機能を担う「ふれあいの森・広場」2施設がある。ビジターセンターでは、直径6メートルの富士山模型や、270インチの大型モニターを通して富士山の成り立ちや文化的側面を説明するなど、観光施設や学術的施設としての機能を持っている施設であった。ふれあいの森では、天然芝の広場や遊具、50メートルのスライダーなどがある。



富士山樹空の森

(3) 時の栖視察

御殿場市のスポーツツーリズム推進に大きな役割を果たしている「時の栖」の視察を行った。平成6年創業の株式会社時之栖は、合宿をはじめ総合観光施設が御殿場市神山を中心に展開されている。収容人数360名の時之栖と、ホテルブラッシュアップ収容人数168名などの宿泊施設を備え、天然温泉や自家製地ビールやワイン、チョコレートなどの観光商品製造販売などの観光面での取り組みや、合計27面ものサッカーを中心に体育館、テニスコート、など各種スポーツ施設が整備されており、年間10万人以上の合宿・宿泊者を集めるなど、御殿場市スポーツツーリズムに不可欠な事業展開がなされている。合宿利用する側のメリットとしては、練習試合が取り組みやすいことと比較的に冷涼な気候であるというのが評判となり、サッカー日本代表の合宿地にもなっている。そのことから国内でも有数の合宿地としてスポーツツーリズムに貢献している。



(4) 道の駅川場田園プラザ

道の駅・川場田園プラザは、地域貢献している道の駅として、2014年に国土交通省選定の、全国モデル「道の駅」(6駅)に認定された場所を視察した。地方創生の成功モデルとして、国内外からも視察団が訪れている。平成27年度には180万人が訪れる道の駅の中ではトップに位置している。

川場村の事業の目的は、「農業＋観光」として位置づけ、地場産品の振興及び新規開発と、川場村の商業・情報・ふれあいの核であるタウンサイトの場として機能させることであった。これまでの活動としては、コミュニティ活動として、世田谷区との交流活動通して活発化を図り、農業を核とした地場産業おこし、田園や自然環境に相応した村づくりなどに重点とし活動を行った。

田園プラザ事業の目的は、

- ① 若者を中心とした就業機会を増やし、定住UIターンなどを推進する。
- ② 地場産品の開発やPRを進め、その流通を促進する。
- ③ 村民相互、ならびに村民と村来者の交流・交歓や情報交換の場とする。
- ④ 村来者の飲食や買回り品のニーズに応えるとともに、村内消費の拡大を図る。
- ⑤ シャトルバスの起終点など、村内の交通ターミナルとして機能する。

この事業は、「オンリーワンへのコダワリ商品」の開発と行政と住民が一丸となった取り組みである。



道の駅川場田園プラザ

【所感】

御殿場市は、民間活力を生かしスポーツツーリズムを推進し交流人口を増やしている。御殿場市長との懇談の中でも民間企業の果たす役割はとても大きいと話していた。白老町としても今後公共施設維持管理や、建て替えなどを考えた時には、交通アクセス良さや冷涼気候、温泉などを利用した民間活力導入も検討すべきだと思った。

4月には国立アイヌ民族博物館がオープンする。白老町ならではの商品や購買意欲をそそられるラッピングなど取り組んでみるべきことが沢山あった。

行政と民間が一丸となって取り組みの中に希望とチャンスがあるのではないかと感じた。